

床の間の賢人たち

皆さんの家に「掛け軸」はありますか？

幼い頃、祖父母の家にあるのを見かけましたが、今は見たことがない人も増えているのではないのでしょうか。掛け軸は書画を紙や布で表装したもので、日本へは仏教と共に伝来しました。

今回取り上げた掛け軸は中国の偉人「李勣」(写真①)と「太公望」(写真②)の絵です。この絵は江戸時代に幕府の御用絵師であった住吉廣行が京都御所の紫宸殿の障子に描いた中国の聖人、賢人、名臣32人の絵「賢聖障子」に含まれているものです。賢聖障子は名画として広く知られており、同じ絵を欲しがめる人が住吉廣行に描いてもらったものだと考えられます。

住吉廣行が属していた「住吉派」は、日本画で有名な狩野派と同じ幕府の御用絵師です。狩野派に比べ、住吉派はあまり知られてはいませんが、この掛け軸は、線の繊細さや顔や衣服の写実的な描写など、一見して非常に精巧な作品です。

もともとこの掛け軸は八幡町のサケ料理店「サーモンふじい」の座敷に掛けられていたもので、当時から目を引く作品であったようです。サーモンふじいは札幌の「越中屋旅館」から受け継いだと言われています。サケで栄えた石狩には、いろいろ貴重なお宝が集まってきたのでしょう。まだまだ隠れたお宝がたくさんあるのかもしれないですね。

この執筆に際し、掛け軸を北海道立近代美術館の五十嵐聡美学芸員に見ていただき、懇切な所見をいただきました。また、石狩市郷土研究会顧問の田中實さんにはさまざまなご教示をいただきました。お二方にはこの場を借りてお礼申し上げます。

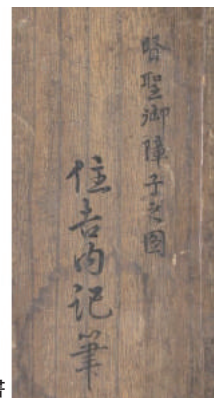
(坂本 恵衣)



写真② 太公望(周建国の名将)



写真① 李勣(唐初の名将)



掛け軸の箱書



石狩市学芸員
坂本 恵衣 Kei Sakamoto

専門は文化人類学。地域信仰について調べるとともに、石狩の人々の生活の中で宗教がどのように考えられていたのか、歴史的変遷などを研究する。

閩文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。